

## 医薬品に共通する特性と基本的な知識

問1 医薬品の本質に関する次の記述について、正しいものの組み合わせを下欄から選びなさい。

- a 検査薬は、直接人体に対して使用されない医薬品であるため、検査結果について正しい解釈や判断がなされなくても、人の健康に影響を与えることはない。
- b 医薬品の販売等に従事する専門家は、購入者が一般用医薬品を適切に選択できるように、専門家は適切な情報提供を行うとともに、購入者からの相談に対応する必要がある。
- c 医薬品は、市販前に十分な有効性、安全性の確認が行われているため、販売時の取扱いや使用上の注意等が市販後に変更されることはない。
- d 一般用医薬品は、医療用医薬品と比較すればリスクは相対的に低いと考えられるが、科学的な根拠に基づく適切な理解や判断によって適正な使用が図られる必要がある。

下欄

- 1 (a、b)    2 (a、c)    3 (b、d)    4 (c、d)

問2 医薬品のリスク評価に関する次の記述の正誤について、正しい組み合わせを下欄から選びなさい。

- a 薬物の毒性の指標として用いられる50%致死量は、ヒトを対象とした実験から求められる。
- b 医薬品は、食品よりもはるかに厳しい安全性基準が要求されており、製造販売後安全管理基準として、GPSが制定されている。
- c 少量の医薬品であれば、長期投与されても発がん作用や胎児毒性などの毒性が生じることはない。
- d 医薬品の効果とリスクは、薬物暴露時間と暴露量との積で表現される用量-反応関係に基づいて評価される。

下欄

	a	b	c	d
1	正	正	誤	誤
2	誤	正	誤	正
3	誤	正	正	誤
4	誤	誤	誤	正
5	正	誤	正	正

問3 いわゆる健康食品に関する次の記述について、誤っているものを1つ選びなさい。

- 1 栄養機能食品については、それに含まれる各種ビタミン、ミネラルに関する栄養機能の表示を行うことができる。
- 2 機能性表示食品については、疾病に罹患している者の健康増進に役立つ旨又は適する旨を表示することができる。
- 3 特定保健用食品については、通常の食品では表示できない特定の保健機能の表示を行うことができる。
- 4 健康補助食品（いわゆるサプリメント）は、錠剤等の医薬品と類似した形状で販売されているものも多く、誤った使用方法により健康被害を生じた例が報告されている。

問4 セルフメディケーションに関する次の記述について、（ ）に入れるべき字句の正しい組み合わせを下欄から選びなさい。

（ a ）の定義によれば、「自分自身の（ b ）に責任を持ち、軽度な身体の不調は（ c ）する」ことをセルフメディケーションという。

下欄

	a	b	c
1	世界保健機関（WHO）	健康	自分で手当て
2	独立行政法人医薬品医療機器総合機構	健康	医師又は薬剤師に相談
3	世界保健機関（WHO）	治療	医師又は薬剤師に相談
4	独立行政法人医薬品医療機器総合機構	治療	自分で手当て
5	厚生労働省	治療	自分で手当て

問5 医薬品の副作用に関する次の記述について、正しいものの組み合わせを下欄から選びなさい。

- a 一般用医薬品の使用にあたっては、疾病に伴う症状の改善を優先し、副作用の兆候が現れても使用を継続することとされている。
- b 医薬品の添加物は、アレルゲン（アレルギーを引き起こす原因物質）となることはない。
- c 医薬品の中には、牛乳を原材料として作られているものがあるため、それに対するアレルギーがある人では、使用を避けなければならない場合がある。
- d アレルギーとは、本来人体を防御するために生じる免疫反応が過剰に起こり、好ましくない症状が引き起こされることをいう。

下欄

- 1 (a、b)    2 (a、d)    3 (b、c)    4 (c、d)

問6 一般用医薬品の使用に関する次の記述について、誤っているものを1つ選びなさい。

- 1 一般用医薬品には、習慣性・依存性がある成分を含んでいるものがあり、乱用されるおそれがある。
- 2 一般用医薬品の不適正な使用により、一度でも薬物依存が形成されると、そこから離脱することは容易ではない。
- 3 一般用医薬品の選択について判断するのは、専門家であることから、一般用医薬品の服用後に症状の悪化や副作用等が発生する可能性は極めて低い。
- 4 医薬品の販売等に従事する専門家は、一般用医薬品を大量購入したり、頻回購入を試みる購入者に対し、状況によっては販売を差し控えるなどの対応を取ることが望ましい。

問7 医薬品の相互作用に関する次の記述について、誤っているものを1つ選びなさい。

- 1 医薬品の相互作用は、医薬品が吸収される過程で起こる場合はあるが、排泄される過程で起こることはない。
- 2 医療機関で治療を受けている人が一般用医薬品を併用するにあたっては、問題ないかどうかについて、治療を行っている医師又は歯科医師若しくは処方された医薬品を調剤する薬剤師に確認する必要がある。
- 3 一般用医薬品は、ひとつの医薬品の中に作用の異なる複数の成分を組み合わせで配合されることが多いため、他の医薬品と併用した場合、作用が強くなり出過ぎたり、副作用を招く危険性が増すことがある。
- 4 副作用や相互作用のリスクを減らす観点から、緩和を図りたい症状が明確な場合には、その症状にあった成分のみが配合された医薬品を選択することが望ましい。

問8 医薬品と食品との相互作用に関する次の記述について、正しいものの組み合わせを下欄から選びなさい。

- a 生薬成分が配合された医薬品は、食品と合わせて摂取することにより、その効き目や副作用が増強されることはない。
- b 酒類（アルコール）をよく摂取する者は、肝臓の代謝機能が高まっていることが多く、アセトアミノフェンを服用した場合、体内から医薬品が速く消失して十分な薬効が得られなくなることがある。
- c 食品には、医薬品の成分と同じ物質が含まれているものがあり、この食品と医薬品を一緒に服用することにより過剰摂取となる場合がある。
- d 外用薬や注射薬は、食品によって医薬品の作用や代謝に影響を受けることはない。

下欄

- 1 (a、b)    2 (a、d)    3 (b、c)    4 (c、d)

問9 小児の医薬品使用に関する次の記述について、誤っているものを1つ選びなさい。

- 1 医薬品によっては、形状等が小児向けに作られていないため、「小児に対して使用しないこと」などの注意を促している場合がある。
- 2 幼児とは、おおよその目安として7歳未満の者をいう。
- 3 小児は、大人と比べて、肝臓や腎臓における医薬品の代謝・排泄が早く行われるため、作用が弱くなることがある。
- 4 小児は、大人と比べて血液脳関門が未発達であるため、医薬品の成分が脳に達しやすく、中枢神経系に影響を与える医薬品で副作用を起こしやすい。

問10 高齢者の医薬品使用に関する次の記述の正誤について、正しい組み合わせを下欄から選びなさい。

- a 高齢者は、生理機能が衰えつつあり、その度合いは個人差が大きいことから、年齢のみから一概にどの程度リスクが増大しているかを判断することは難しい。
- b 医薬品の使用上の注意等において、高齢者とはおおよその目安として70歳以上を指す。
- c 高齢者は、持病（基礎疾患）を抱えていることが多く、複数の医薬品が長期間使用される場合には副作用を生じるリスクが高い。
- d 高齢者によっては、医薬品の既定用量の下限で使用してもなお作用が強過ぎる等の問題を生じる場合がある。

下欄

	a	b	c	d
1	正	正	正	正
2	誤	正	誤	正
3	誤	誤	正	誤
4	正	誤	正	正
5	正	誤	誤	誤

問11 妊婦、妊娠していると思われる女性又は母乳を与える女性（授乳婦）の医薬品の使用に関する次の記述の正誤について、正しい組み合わせを下欄から選びなさい。

- a 胎盤には、胎児の血液と母体の血液とが混ざり合う仕組み（血液 - 胎盤関門）がある。
- b 便秘薬は、配合成分や用量によっては、流産や早産を誘発するおそれのあるものがあるため、その使用については十分に注意して適正に使用するか、又は使用そのものを避ける必要がある。
- c 多くの一般用医薬品においては、妊婦が使用した場合における安全性に関する評価がなされている。
- d 医薬品の種類によっては、授乳婦が使用した医薬品の成分の一部が乳汁中に移行することが知られており、母乳を介して乳児が医薬品の成分を摂取することがある。

下欄

	a	b	c	d
1	正	正	誤	正
2	誤	正	正	誤
3	誤	誤	正	誤
4	誤	正	誤	正
5	正	誤	誤	誤

問12 医療機関で治療を受けている人等の医薬品の使用に関する次の記述の正誤について、正しい組み合わせを下欄から選びなさい。

- a 医療機関で治療を受けている人への医薬品の販売にあたっては、疾患の程度やその医薬品の種類等に応じて、問題を生じるおそれがあれば、使用を避けることができるよう情報提供を行うことが重要である。
- b 過去に医療機関で治療を受けていた人へ一般用医薬品を販売する際には、過去の治療の内容や時期についての内容を踏まえて、購入者等が使用の可否を判断できるよう情報提供を行うことが重要である。
- c 医療機関での治療の有無に関わらず、医薬品の種類や配合成分等によっては、特定の症状がある人が使用するとその症状を悪化させるおそれがある等、注意が必要なものがある。
- d 近年、生活習慣病等の慢性疾患を持ちながら日常生活を送る生活者が多くなっており、疾患の種類や程度によっては、一般用医薬品を使用することによってその症状が悪化したり、治療が妨げられる場合がある。

下欄

	a	b	c	d
1	誤	正	正	正
2	正	誤	正	正
3	正	正	誤	正
4	正	正	正	誤
5	正	正	正	正

問13 医薬品の品質に関する次の記述の正誤について、正しい組み合わせを下欄から  
選びなさい。

- a 湿度は、医薬品の品質劣化を引き起こす因子とはならない。
- b 医薬品が保管・陳列される場所については、清潔性を保つとともに、品質が  
十分保持される環境となるよう留意する必要がある。
- c 医薬品は、適切な保管・陳列がなされなければ、人体に好ましくない作用を  
もたらす物質を生じることがあるが、医薬品の効き目が低下することはない。
- d 医薬品の外箱などに記載されている「使用期限」とは、未開封の状態で保管さ  
れた場合に品質が保持される期限のことをいう。

下欄

	a	b	c	d
1	正	正	誤	正
2	誤	正	誤	正
3	誤	正	正	誤
4	誤	誤	正	誤
5	正	誤	誤	誤

問14 適切な医薬品の選択と受診勧奨に関する次の記述について、正しいものの組み合わせを下欄から選びなさい。

- a 一般用医薬品の役割のひとつとして、軽度な疾病に伴う症状の改善が挙げられる。
- b 一般用医薬品の販売等に従事する専門家が、購入者から確認すべき基本的な事項のひとつとして、購入者が加入している健康保険の種類が挙げられる。
- c 一般用医薬品の購入を検討している者に対して、医療機関の受診を勧めることは適切ではない。
- d 一般用医薬品で対処可能な範囲は、医薬品を使用する人によって異なる。

下欄

- 1 (a、b)    2 (a、d)    3 (b、c)    4 (c、d)

問15 プラセボ効果に関する次の記述について、正しいものの組み合わせを下欄から選びなさい。

- a 医薬品を使用したとき、結果的又は偶発的に薬理作用によらない作用を生じることをプラセボ効果という。
- b プラセボ効果が生じる要因のひとつとして、時間の経過による自然緩解が考えられる。
- c プラセボ効果によってもたらされる反応や変化は、望ましいものをいい、不都合なものはない。
- d プラセボ効果は、主観的な変化であり、客観的に測定可能な変化として現れることはない。

下欄

- 1 (a、b)    2 (a、d)    3 (b、c)    4 (c、d)

問16 サリドマイド及びサリドマイド訴訟に関する次の記述について、正しいものの組み合わせを下欄から選びなさい。

- a サリドマイド訴訟は、妊娠している女性がサリドマイド製剤を使用したことにより、出生児に四肢欠損や耳の障害等の先天異常が発生したことに対する損害賠償訴訟である。
- b サリドマイドの光学異性体のうち、R体が副作用の発現に関与している。
- c 日本では、西ドイツ企業から催奇形性についての勧告や警告が発せられていたにもかかわらず、出荷・販売停止、回収措置などの対応が遅れ、問題視された。
- d サリドマイドには、血管新生を促進する作用があり、これが副作用発生の原因となった。

下欄

- 1 (a、c)    2 (a、d)    3 (b、c)    4 (b、d)

問17 スモン及びスモン訴訟に関する次の記述の正誤について、正しい組み合わせを下欄から選びなさい。

- a スモン訴訟とは、キノホルム製剤を使用した人が、慢性脊髄視神経症に罹患したことに対する損害賠償訴訟のことである。
- b スモンの症状は、初期には腹部の膨満感から激しい腹痛を伴う下痢を生じ、次第に下半身の痺れや脱力、歩行困難等が現れる。
- c スモン患者に対しては、施術費及び医療費の自己負担分の公費負担や、重症患者に対する介護事業等が講じられている。
- d スモン訴訟は、医薬品副作用被害救済制度創設にあたっての契機のひとつとなった。

下欄

	a	b	c	d
1	正	正	正	誤
2	正	誤	誤	正
3	誤	正	正	正
4	誤	誤	正	誤
5	正	誤	誤	誤

問18 HIV訴訟に関する次の記述について、( )に入れるべき字句の正しい組み合わせを下欄から選びなさい。

HIV訴訟とは、HIV（ヒト免疫不全ウイルス）が混入した原料血漿から製造された血液凝固因子製剤が（ a ）患者に投与されたことにより、HIVに感染したことに対する損害賠償訴訟である。

国は、HIV感染者に対する恒久対策として、エイズ治療研究開発センター及び拠点病院の整備や（ b ）等の様々な取組みを推進している。

また、血液製剤の安全確保対策として検査や（ c ）の際の問診の充実が図られた。

下欄

	a	b	c
1	血友病	治療薬の早期提供	手術
2	白血病	治療薬の早期提供	献血
3	血友病	生活資金の給付	手術
4	血友病	治療薬の早期提供	献血
5	白血病	生活資金の給付	手術

問19 CJD（クロイツフェルト・ヤコブ病）及びCJD訴訟に関する次の記述について、誤っているものを1つ選びなさい。

- 1 CJDは、タンパク質の一種（プリオン）が原因物質とされている。
- 2 CJDは、認知症に類似した症状が現れ、死に至る重篤な神経難病である。
- 3 CJD患者は、心臓外科手術の際に、原因物質に汚染されたヒト乾燥硬膜が用いられたことにより発生した。
- 4 CJD訴訟は、生物由来製品による被害救済制度創設にあたっての契機のひとつとなった。

問20 医薬品の副作用や薬害に関する次の記述について、正しいものの組み合わせを下欄から選びなさい。

- a 医薬品は、人体にとって本来異物であるため、治療上の効能・効果とともに何らかの有害な作用（副作用等）が生じることは避けがたいものである。
- b 科学技術の進歩により、医薬品の使用による副作用被害やいわゆる薬害の発生機序は全て解明されているため、製薬会社等が適切な情報提供を行えば、副作用被害等は発生しない。
- c 一般用医薬品の販売等に従事する者は、薬害事件の歴史を十分に理解し、医薬品の副作用等による健康被害の拡大防止に関して、医薬品の情報提供、副作用報告等を通じて、その責務の一端を担っていることを認識する必要がある。
- d 国内で一般用医薬品として販売されていたもので、薬害の原因となったものはない。

下欄

- 1 (a、b)    2 (a、c)    3 (b、d)    4 (c、d)

## 主な医薬品とその作用

問21 かぜ薬に含まれる主な配合成分に関する次の記述について、誤っているものを1つ選びなさい。

- 1 小児が使用するためにかぜ薬を販売する場合は、解熱鎮痛成分がアセトアミノフェンや生薬成分のみからなる製品の選択を提案することが重要である。
- 2 血栓のある人（脳梗塞、心筋梗塞、血栓性静脈炎等）や血栓を起こすおそれのある人にトラネキサム酸を含む製品を使用する場合は、治療を行っている医師に相談するなどの対応が必要である。
- 3 解熱鎮痛成分による胃腸障害の軽減を目的として、ブロムワレリル尿素、アリルイソプロピルアセチル尿素が配合されていることがある。
- 4 リゾチーム塩酸塩は、炎症を生じた鼻粘膜や喉の組織の修復に寄与するほか、痰の粘り気を弱め、また、気道粘膜の線毛運動を促進して痰の排出を容易にする作用を示す。

問22 解熱鎮痛薬に関する次の記述について、正しいものの組み合わせを下欄から選びなさい。

- a 解熱鎮痛薬は、腹痛を含む痙攣性の内臓痛に対しては効果が期待できるが、月経痛（生理痛）に対しては効果が期待できない。
- b アセトアミノフェンは、中枢作用による解熱・鎮痛効果は期待できない。
- c アスピリンは、15歳未満の小児に対しては、いかなる場合も一般用医薬品として使用してはならない。
- d イブプロフェンは、出産予定日12週以内の妊婦については、服用しないこととされている。

下欄

- 1 (a、b)    2 (a、c)    3 (b、d)    4 (c、d)

問23 かげ薬に配合される次の成分のうち、くしゃみや鼻汁を抑える目的で配合される成分を1つ選びなさい。

- 1 アスピリン
- 2 クロルフェニラミンマレイン酸塩
- 3 アセトアミノフェン
- 4 ブロムヘキシシン塩酸塩
- 5 トラネキサム酸

問24 眠気を促す薬に関する次の記述の正誤について、正しい組み合わせを下欄から選びなさい。

- a 妊娠中にしばしば生じる睡眠障害は、ホルモンのバランスや体型の変化等が原因であり、睡眠改善薬の使用が効果的である。
- b ジフェンヒドラミン塩酸塩などの抗ヒスタミン成分を含有する医薬品の服用後は、自動車の運転等に從事させてはならない。
- c 飲酒とともにアリルイソプロピルアセチル尿素を含む催眠鎮静薬を服用すると、その薬効が減弱するおそれがあるため、服用時には飲酒を避ける必要がある。
- d 医薬品の販売等に従事する専門家は、入眠障害、熟眠障害等の症状が慢性的に続いている人に対しては、睡眠改善薬を増量するよう説明すべきである。

下欄

	a	b	c	d
1	正	正	誤	誤
2	誤	正	誤	誤
3	正	誤	正	誤
4	誤	正	正	誤
5	正	誤	正	正

問25 鎮暈薬（乗物酔い防止薬）に関する次の記述について、正しいものの組み合わせを下欄から選びなさい。

- a 抗コリン成分は、眠気を促すほかに、目のかすみや異常なまぶしさを引き起こすことがある。
- b スコポラミン臭化水素酸塩は、肝臓で徐々に代謝されるため、抗ヒスタミン成分等と比べて作用持続時間が長い。
- c メクリジン塩酸塩は、他の抗ヒスタミン成分と比べて作用発現が早く、持続時間が短い。
- d ジフェニドール塩酸塩は、内耳にある前庭と脳を結ぶ神経（前庭神経）の調節作用のほか、内耳への血流を改善する作用を示す。

下欄

- 1 (a、c)    2 (a、d)    3 (b、c)    4 (b、d)

問26 鎮咳去痰薬に配合されるコデインリン酸塩に関する次の記述について、誤っているものを1つ選びなさい。

- 1 交感神経を刺激して気管支を拡張させる作用により、呼吸を楽にして咳や喘息の症状を鎮めることを目的に用いられる。
- 2 作用本体であるコデインはモルヒネと同じ基本構造を持ち、依存性がある成分であり、麻薬性鎮咳成分とも呼ばれる。
- 3 妊娠中に服用すると、一部が血液-胎盤関門を通過して胎児へ移行することが知られている。
- 4 副作用として、胃腸運動の低下による便秘が現れることがある。

問27 咳止めや痰を出しやすくする目的で用いられる漢方処方製剤に関する次の記述について、正しいものの組み合わせを下欄から選びなさい。

- a 半夏厚朴湯は、気分がふさいで、咽喉・食道部に異物感があり、ときに動悸、めまい、嘔気などを伴う不安神経症、神経性胃炎、つわり、咳、しわがれ声、のどのつかえ感に適している。
- b 柴朴湯は、副作用として、頻尿、排尿痛、血尿、残尿感等の膀胱炎様症状が現れることがある。
- c 麦門冬湯は、気管支炎、気管支喘息等に用いられ、水様痰の多い人に適している。
- d 麻杏甘石湯は、構成生薬としてマオウを有しているが、高血圧や糖尿病の診断を受けた人が使用しても症状を悪化させるおそれはない。

下欄

- 1 (a、b)    2 (a、c)    3 (b、d)    4 (c、d)

問28 口腔咽喉薬・うがい薬（含嗽薬）に関する次の記述について、正しいものの組み合わせを下欄から選びなさい。

- a トローチ剤やドロップ剤は、有効成分が口腔内や咽頭部に行き渡るよう、口中に含み、嚙まずにゆっくり溶かして使用することが重要である。
- b 噴射式の液剤を使用する場合は、咽頭部に行き渡るように息を吸いながら噴射する必要がある。
- c うがい薬（含嗽薬）の使用後すぐに食事を摂ると、殺菌消毒効果が薄れやすい。
- d 口腔咽喉薬やうがい薬（含嗽薬）は、局所的な作用を目的とする医薬品であり、全身的な影響を生じることはない。

下欄

- 1 (a、b)    2 (a、c)    3 (b、d)    4 (c、d)

問29 ヨウ素系殺菌消毒成分に関する次の記述の正誤について、正しい組み合わせを下欄から選びなさい。

- a ヨウ素系殺菌消毒成分の口腔内使用が、甲状腺ホルモン産生に影響を与えることはほとんどないことから、バセドウ病や橋本病患者に対しても影響なく使用できる。
- b 妊娠中に摂取されたヨウ素は、血液-胎盤関門を通過しないため、胎児に影響を与えるおそれはない。
- c ポビドンヨードが配合されたうがい薬（含嗽薬）では、使用によって銀を含有する歯科材料（義歯等）が変色することがある。
- d ヨウ素は、レモン汁やお茶などに含まれるビタミンC等の成分によって殺菌作用が増強されるため、そうした食品を摂取した直後の使用や混合は避ける。

下欄

	a	b	c	d
1	正	誤	正	正
2	正	正	誤	誤
3	誤	誤	正	正
4	誤	正	誤	正
5	誤	誤	正	誤

問30 胃腸薬に含まれる成分のうち、胃粘膜保護・修復作用を期待して配合される成分として、正しいものの組み合わせを下欄から選びなさい。

- a スクラルファート
- b ロートエキス
- c ジメチコン
- d トロキシピド

下欄

1 (a、c)    2 (a、d)    3 (b、c)    4 (b、d)

問31 腸に関する病態及びその薬に関する次の記述の正誤について、正しい組み合わせを下欄から選びなさい。

- a 腸の異常を生じる要因は、腸自体やその内容物によるものだけでなく、腸以外の病気等が自律神経系を介して腸の働きに異常を生じさせる場合もある。
- b 瀉下薬には、腸管を刺激したり、糞便のかさや水分量を減らす働きがある成分が含まれている。
- c 整腸薬には、腸内細菌の数やバランスに影響を与えたり、腸の活動を促す成分が主として配合されている。
- d 整腸薬のうち、人体に対する作用が緩和なものは、医薬部外品として製造販売されている製品がある。

下欄

	a	b	c	d
1	正	誤	正	正
2	正	正	誤	誤
3	正	誤	正	誤
4	誤	正	誤	正
5	誤	正	正	誤

問32 次の腸の薬に含まれる成分とその作用の関係について、誤っているものを1つ選びなさい。

(成分)	(作用)
1 次硝酸ビスマス	— 腸粘膜のタンパク質と結合して不溶性の膜を形成し、腸粘膜をひきしめる。
2 ベルベリン	— 抗菌作用により、腸内細菌のバランスを正常に近づける。
3 沈降炭酸カルシウム	— 腸管内の異常発酵によって生じた有害な物質を吸着する。
4 ヒマシ油	— 分解物が主に大腸を刺激する。

問33 ブチルスコポラミン臭化物が配合されている胃腸鎮痛鎮痙薬を使用する際に特に注意が必要な人として、誤っているものを1つ選びなさい。

- 1 排尿困難の症状がある人
- 2 心臓病の診断を受けた人
- 3 乗物又は機械類の運転を行う人
- 4 白内障の診断を受けた人

問34 胃腸鎮痛鎮痙薬に配合される成分に関する次の記述について、正しいものの組み合わせを下欄から選びなさい。

- a パパペリン塩酸塩は、抗コリン成分とは異なるため、眼圧上昇作用は見られない。
- b メチルベナクチジウム臭化物の副作用として、口渇や便秘が見られる。
- c 生薬では、ケシ科エンゴサクの塊茎であるエンゴサクが、鎮痛鎮痙作用を目的として配合される場合がある。
- d オキセサゼインは、短期間では効果が得られないので、長期にわたって使用することが推奨されている。

下欄

- 1 (a、c)    2 (a、d)    3 (b、c)    4 (b、d)

問35 浣腸薬に関する次の記述の正誤について、正しい組み合わせを下欄から選びなさい。

- a 浣腸薬は、繰り返し使用することで直腸の感受性が高まり、効果が強くなる。
- b 浣腸薬を便秘以外のときに直腸内容物の排除を目的として用いることは、適当でない。
- c グリセリンが配合された浣腸薬は、排便時に血圧低下を生じて、立ちくらみの症状が現れるとの報告がある。
- d 炭酸水素ナトリウムを主薬とする坐剤は、直腸内で徐々に分解して水素ガスの微細な気泡を発生することで、直腸を刺激する作用を期待して用いられる。

下欄

	a	b	c	d
1	正	正	誤	正
2	正	誤	正	誤
3	誤	正	誤	正
4	誤	誤	正	正
5	誤	正	正	誤

問36 次の駆虫薬に配合される成分とその作用の関係について、正しいものの組み合わせを下欄から選びなさい。

(成分)	(作用機序)
a サントニン	— 回虫の自発運動を抑える。
b カイニン酸	— 回虫に痙攣を起こさせる。
c ピペラジンリン酸塩	— 蟯虫の呼吸や栄養分の代謝を抑える。
d パモ酸ピルビニウム	— アセチルコリン伝達を妨げて、回虫及び蟯虫の運動筋を麻痺させる。

下欄

1 (a、b)    2 (a、d)    3 (b、c)    4 (c、d)

問37 強心薬に配合される成分に関する次の記述について、誤っているものを1つ選びなさい。

- 1 センソは、皮膚や粘膜に触れると局所麻酔作用を示すため、センソが配合された医薬品を服用する際は、噛まずに服用することとされている。
- 2 ジャコウは、ウグイスガイ科のアコヤガイ、シンジュガイ又はクロチョウガイ等の外套膜組成中に病的に形成された顆粒状物質を基原とする生薬である。
- 3 ゴオウは、ウシ科のウシの胆嚢中に生じた結石を基原とする生薬である。
- 4 ロクジョウは、強心作用のほか、強壯作用もあるとされる。

問38 高コレステロール改善薬に関する次の記述の正誤について、正しい組み合わせを  
下欄から選びなさい

- a 高コレステロール改善薬は、血中コレステロール異常の改善だけでなく、血中コレステロール異常に伴う末梢血行障害（手足の冷え、痺れ）の緩和効果も期待できる医薬品である。
- b 大豆油不飽和脂肪酸（ソイステロール）は、腸管におけるコレステロールの吸収を抑える働きがある。
- c パンテチンは、高密度リポタンパク質（HDL）等の異化排泄を促進し、リポタンパクリパーゼ活性を高めて、低密度リポタンパク質（LDL）産生を高める作用がある。
- d 医薬品の販売等に従事する専門家は、リボフラビンの摂取により、尿が黄色くなった場合には、ただちに使用を中止し、医師の診察を受けるよう、購入者へ説明すべきである。

下欄

	a	b	c	d
1	正	誤	誤	誤
2	正	正	正	正
3	正	正	誤	誤
4	誤	誤	誤	正
5	誤	正	正	誤

問39 貧血用薬に関する次の記述について、( )に入れるべき字句の正しい組み合わせを下欄から選びなさい。

貧血用薬には、ヘモグロビン産生に必要な ( a ) のほか、正常な赤血球の形成に働く ( b ) や葉酸が配合されている場合がある。また、( c ) は、消化管内で鉄が吸収されやすい状態に保つことを目的として用いられる。

下欄

	a	b	c
1	ビタミンB 6	ビタミンB 1 2	ビタミンC
2	ビタミンB 6	ビタミンB 2	ビタミンA
3	ビタミンB 6	ビタミンB 2	ビタミンC
4	ビタミンB 1	ビタミンB 1 2	ビタミンA
5	ビタミンB 1	ビタミンB 2	ビタミンC

問40 循環器用薬に関する次の記述に合致する成分を下欄から1つ選びなさい。

心筋の酸素利用効率を高めて収縮力を高めることによって血液循環の改善効果を示すとされ、軽度な心疾患により日常生活の身体活動を少し越えたときに起こる動悸、息切れ、むくみの症状に用いられる。

小児において心疾患によるこれらの症状があるような場合は、医師の診療を受けることが優先されるべきであり、15歳未満の小児向けの製品はない。

下欄

- 1 コウカ
- 2 ユビデカレノン
- 3 ヘプロニカート
- 4 イノシトールヘキサニコチネート
- 5 ルチン

問41 外用痔疾用薬に配合される成分に関する次の記述について、正しいものの組み合わせを下欄から選びなさい。

- a リドカインは、知覚神経に作用して刺激の伝達を可逆的に遮断することで、痔に伴う痛みや痒みを和らげる。
- b カンフルは、ステロイド性抗炎症成分であり、痔による炎症や痒みを和らげる。
- c アラントインは、痔による肛門部の創傷の治癒を促す作用を示す。
- d セチルピリジニウム塩化物は、粘膜表面に不溶性の膜を形成することで、粘膜の保護や止血作用を示す。

下欄

- 1 (a、c)    2 (a、d)    3 (b、c)    4 (b、d)

問42 婦人薬に関する次の記述について、誤っているものを1つ選びなさい。

- 1 妊娠中の女性ホルモン成分の摂取による胎児の先天性異常の発生が報告されており、妊婦又は妊娠していると思われる女性では使用を避ける必要がある。
- 2 膣粘膜や外陰部に適用された女性ホルモン成分は、適用部位から吸収されて循環血液中に移行するが、乳汁中には移行しないため、母乳を与える女性に使用される。
- 3 サフランは、鎮静、鎮痛のほか、女性の滞っている月経を促す作用を期待して配合される場合がある。
- 4 ジオウは、血行を改善し、血色不良や冷えの症状を緩和するほか、強壯、鎮静、鎮痛等の作用を期待して用いられる。

問43 内服アレルギー用薬（鼻炎用内服薬を含む）に配合される成分に関する次の記述の正誤について、正しい組み合わせを下欄から選びなさい。

- a クロルフェニラミンマレイン酸塩は、主に肥満細胞からのヒスタミンの遊離を妨げることにより、ヒスタミンの働きを抑える作用を示す。
- b セレギリン塩酸塩を服用中の患者が、プソイドエフェドリン塩酸塩の配合された鼻炎用内服薬を使用した場合、体内でのプソイドエフェドリンの代謝が促進されて、作用が減弱するおそれがある。
- c 抗ヒスタミン成分は、ヒスタミンの働きを抑える作用以外に抗コリン作用も示すため、排尿困難や口渇、便秘等の副作用が現れることがある。
- d 抗コリン成分は、鼻腔内の粘液分泌腺からの粘液の分泌を抑えるとともに、鼻腔内の刺激を伝達する副交感神経系の働きを抑えることで、鼻汁分泌やくしゃみを抑える作用がある。

下欄

	a	b	c	d
1	正	正	正	誤
2	正	誤	正	正
3	正	正	誤	誤
4	誤	誤	正	正
5	誤	誤	正	誤

問44 点眼薬を使用する際の注意点に関する次の記述について、正しいものの組み合わせを下欄から選びなさい。

- a 点眼の際に容器の先端がまぶたやまつげに触れると、薬液の汚染を生じる原因となるため、触れないように注意しながら点眼する。
- b 点眼後は、数秒間、まぶたを閉じて目頭を押さえると、薬液が鼻腔内へ流れ込むのを防ぐことができ、効果的である。
- c 点眼薬の容器に記載されている使用期限は、開封後冷所保存した状態における期限を示したものである。
- d 点眼薬では、目の充血やかゆみ、腫れ等の局所性の副作用が現れることはあるが、全身性の副作用が現れることはない。

下欄

- 1 (a、b)    2 (a、c)    3 (b、d)    4 (c、d)

問45 皮膚に用いる殺菌消毒成分に関する次の記述について、正しいものの組み合わせを下欄から選びなさい。

- a ポビドンヨードは、一般細菌類の一部（連鎖球菌、黄色ブドウ球菌などの化膿菌）に対する殺菌消毒作用を示すが、真菌、結核菌、ウイルスに対する効果はない。
- b ベンザルコニウム塩化物は、石鹼との混合によって殺菌消毒効果が増強されてしまうので、石鹼で洗浄した後に使用する場合には、石鹼を十分に洗い流す必要がある。
- c クロルヘキシジングルコン酸塩は、結核菌やウイルスに対する殺菌消毒作用はない。
- d マーキュロクロムは、ヨードチンキと混合することで殺菌作用が低下する。

下欄

- 1 (a、b)    2 (a、c)    3 (b、d)    4 (c、d)

問46 ステロイド性抗炎症成分に関する次の記述の正誤について、正しい組み合わせを下欄から選びなさい。

- a ステロイド性抗炎症成分は、副腎髄質ホルモンと共通する化学構造を持つ。
- b 外用の場合は、末梢組織における炎症を抑える作用を示し、痒みや発赤などの皮膚症状を抑える。
- c 外用に伴う副作用として、細菌や真菌、ウイルスによる皮膚感染を引き起こすことがある。
- d ステロイド性抗炎症成分を主な成分とする外皮用薬は、広範囲に生じた皮膚症状や、慢性の湿疹・皮膚炎に適用される。

下欄

	a	b	c	d
1	正	正	正	誤
2	正	正	誤	正
3	正	誤	誤	誤
4	誤	誤	正	正
5	誤	正	正	誤

問47 非ステロイド性抗炎症成分（NSAIDs）に関する次の記述について、誤っているものを1つ選びなさい。

- 1 ウフェナマートは、皮膚の炎症によるほてりや痒み等の緩和を目的として用いられる。
- 2 インドメタシンは、喘息を起こしたことがある人では使用を避ける必要がある。
- 3 フェルビナクを主要成分とする外用剤は、抗炎症作用の他に、殺菌作用も有しているため、化膿している患部へも使用される。
- 4 ケトプロフェンを使用中又は使用後しばらくの間は、塗布部が紫外線に当たるとのを避ける必要がある。

問48 抗菌作用及び抗真菌作用を有する成分に関する次の記述について、正しいものの組み合わせを下欄から選びなさい。

- a スルファジジン、細菌のDNA合成を阻害する。
- b 硫酸フラジオマイシンは、細菌の細胞壁合成を阻害する。
- c ミコナゾール硝酸塩は、皮膚糸状菌の細胞膜を構成する成分の産生を妨げたり、細胞膜の透過性を変化させることにより、その増殖を抑える。
- d シクロピロクスオラミンは、主に皮膚糸状菌の呼吸や代謝を妨げることにより、その増殖を抑える。

下欄

- 1 (a、c)    2 (a、d)    3 (b、c)    4 (b、d)

問49 抗真菌薬の使用に関する次の記述の正誤について、正しい組み合わせを下欄から選びなさい。

- a 一般的に、じゅくじゅくと湿潤している患部には、軟膏又はクリームが適するとされる。
- b 液剤は、有効成分の浸透性が低いため、患部に対する刺激は弱い。
- c 湿疹とみずむし等の初期症状は類似していることが多く、湿疹に抗真菌作用を有する成分を使用すると、かえって湿疹の悪化を招くことがある。
- d 皮膚が厚く角質化している部分には、液剤が適している。

下欄

- |   | a | b | c | d |
|---|---|---|---|---|
| 1 | 正 | 正 | 誤 | 誤 |
| 2 | 正 | 誤 | 誤 | 正 |
| 3 | 正 | 誤 | 正 | 正 |
| 4 | 誤 | 正 | 正 | 正 |
| 5 | 誤 | 正 | 誤 | 誤 |

問50 次の皮膚又は毛髪に用いる薬に配合される成分に関する次の記述について、正しいものの組み合わせを下欄から選びなさい。

- a サリチル酸は、角質成分を溶解することにより、角質を軟化させる。
- b 尿素は、角質層を構成するケラチンを変質させることにより、角質を軟化させる。
- c エストラジオール安息香酸エステルは、男性ホルモンの一種であり、脱毛を抑制する。
- d カシュウは、タデ科のツルドクダミの塊根を基原とする生薬で、頭皮における脂質代謝を高めて、余分な皮脂を取り除く。

下欄

- 1 (a、c)    2 (a、d)    3 (b、c)    4 (b、d)

問51 歯や口中に用いる薬に関する次の記述について、正しいものの組み合わせを下欄から選びなさい。

- a セチルピリジニウム塩化物は、齲蝕（むし歯）により露出した歯髄を通っている知覚神経の伝達を遮断し、痛みを鎮めることを目的として使用される。
- b アラントインは、炎症を起こした歯周組織の修復を促す作用を期待して使用される。
- c 銅クロロフィリンナトリウムは、炎症を起こした歯周組織の修復を促す作用のほか、歯肉炎に伴う口臭を抑える効果も期待して使用される。
- d 外用の口内炎用薬を使用した直後に、口腔咽喉薬、含嗽薬を使用すると、より効果的である。

下欄

- 1 (a、b)    2 (a、d)    3 (b、c)    4 (c、d)

問52 禁煙補助剤に関する次の記述の正誤について、正しい組み合わせを下欄から選  
びなさい。

- a ニコチン置換療法は、ニコチンの摂取方法を喫煙以外に換えて離脱症状の軽減を図りながら徐々に摂取量を減らし、最終的にニコチン摂取をゼロにする方法である。
- b 脳梗塞・脳出血等の急性期脳血管障害の基礎疾患がある人は、使用を避ける必要がある。
- c 咀嚼剤を噛みすぎて、唾液が出過ぎたときは、飲み込まずにティッシュ等に吐き出すこととされている。
- d 非喫煙者では、一般にニコチンに対する耐性がないため、禁煙補助剤の使用により、吐きけ、めまい、腹痛などの症状が現れやすいことから、誤って使用されることのないよう注意する必要がある。

下欄

	a	b	c	d
1	正	正	正	正
2	正	誤	正	誤
3	誤	正	正	正
4	誤	誤	誤	正
5	誤	正	正	誤

問53 滋養強壯保健薬に配合されるビタミン成分に関する次の記述の正誤について、正しい組み合わせを下欄から選びなさい。

- a トコフェロールコハク酸エステルは、主に目の乾燥感や夜盲症の症状の緩和に使用される。
- b エルゴカルシフェロールは、過剰摂取した場合、高カルシウム血症、異常石灰化の症状が現れることがある。
- c ピリドキシン塩酸塩は、タンパク質の代謝に関与し、皮膚や粘膜の健康維持、神経機能の維持に重要な栄養素である。
- d ナイアシンは、歯ぐきからの出血、鼻出血の予防に用いられる。

下欄

	a	b	c	d
1	正	正	誤	誤
2	正	誤	誤	正
3	誤	誤	正	誤
4	誤	正	正	正
5	誤	正	正	誤

問54 次の漢方処方製剤のうち、インターフェロン製剤で治療を受けている人に対して使用を避ける必要があるものを1つ選びなさい。

- 1 麻黄湯
- 2 桂枝湯
- 3 半夏厚朴湯
- 4 芍薬甘草湯
- 5 小柴胡湯

問55 生薬に関する次の記述について、正しいものの組み合わせを下欄から選びなさい。

- a サイコは、セリ科のミシマサイコの根を基原とする生薬で、抗炎症、鎮痛等の作用を期待して用いられる。
- b ボウフウは、セリ科のボウフウの根及び根茎を基原とする生薬で、主に心筋の収縮力を高めて血液循環を改善する作用を期待して用いられる。
- c レンギョウは、モクセイ科のレンギョウ又はシナレンギョウの果実を基原とする生薬で、鎮痛、抗菌等の作用を期待して用いられる。
- d サンザシは、サルノコシカケ科のマツホドの菌核で、通例、外層をほとんど除いたものを基原とする生薬で、利尿、健胃、鎮静等の作用を期待して用いられる。

下欄

- 1 (a、b)    2 (a、c)    3 (b、d)    4 (c、d)

問56 殺虫剤に関する次の記述について、正しいものの組み合わせを下欄から選びなさい。

- a 殺虫剤使用に当たっては、いくつかの殺虫成分を順番に使用していくと、殺虫作用に対する抵抗性が生じるため、同じ成分を長期間連用する方がよい。
- b ジクロロボスは、有機リン系殺虫成分であり、アセチルコリンを分解する酵素（アセチルコリンエステラーゼ）と可逆的に結合してその働きを阻害する。
- c ペルメトリンの殺虫作用は、神経細胞に直接作用して、神経伝達を阻害することによるものである。
- d 有機塩素系殺虫成分は、残留性や体内蓄積性の問題から、現在ではオルトジクロロベンゼンのみが、ウジ、ボウフラの防除目的で使用されている。

下欄

- 1 (a、b)    2 (a、d)    3 (b、c)    4 (c、d)

問57 衛生害虫に関する次の記述の正誤について、正しい組み合わせを下欄から選びなさい。

- a ハエの防除の基本は、ウジの防除であり、ウジの防除法としては、通常、有機リン系殺虫成分が配合された殺虫剤が用いられる。
- b ボウフラの防除では、水系に殺虫剤を投入するため、生態系に与える影響を考慮する必要がある。
- c ゴキブリ防除で燻蒸処理を行う場合は、3週間位後に、もう一度燻蒸処理を行い、孵化した幼虫を駆除する必要がある。
- d シラミは、散髪や洗髪、入浴による物理的方法では防除できないため、医薬品による防除が必須である。

下欄

	a	b	c	d
1	正	正	正	正
2	正	正	正	誤
3	正	誤	誤	正
4	誤	正	誤	正
5	誤	誤	正	誤

問58 消毒薬に関する次の記述について、誤っているものを1つ選びなさい。

- 1 日本薬局方に収載されているクレゾール石鹼液は、原液を水で希釈して用いることとなっている。
- 2 エタノールは、粘膜刺激性があるため、粘膜面や目の回り、傷がある部分への使用は避ける。
- 3 次亜塩素酸ナトリウムは、吐瀉物や血液等が床等にこぼれたときの殺菌消毒に適しているが、有機物の影響を受けやすいので、殺菌消毒の対象物を洗浄した後で使用した方が効果的である。
- 4 アルカリ性の消毒薬が誤って目に入った際は、症状をすみやかに軽減するため、中和剤を使用するのが効果的である。

問59 尿糖・尿タンパク検査薬に関する次の記述の正誤について、正しい組み合わせを下欄から選びなさい。

- a 尿糖検査の場合、原則として早朝尿（起床直後の尿）を検体とし、尿タンパク検査の場合、食後2～3時間を目安に採尿を行う。
- b 採尿する際は、出始めの尿を採取して検査することが望ましい。
- c 検査薬は、尿に浸す時間が短いと正確な検査結果が得られないので、長い時間尿に浸す必要がある。
- d 検査結果が陰性となった場合でも、何らかの症状がある場合は、再検査するか医療機関を受診するなどの対応が必要である。

下欄

	a	b	c	d
1	正	正	正	正
2	正	誤	正	誤
3	正	正	誤	誤
4	誤	誤	正	正
5	誤	誤	誤	正

問60 妊娠検査薬に関する次の記述について、誤っているものを1つ選びなさい。

- 1 妊娠検査薬は、尿中のヒト絨毛性性腺刺激ホルモン（hCG）の有無を調べるものであり、検査の時期としては月経予定日が過ぎて概ね4週目以降の検査が推奨されている。
- 2 一般的な妊娠検査薬は、冷蔵庫内に保管されていると、設計どおりの検出感度を発揮できなくなるおそれがある。
- 3 高濃度のタンパク尿や糖尿の場合、非特異的な反応が生じて擬陽性を示すことがある。
- 4 経口避妊薬や更年期障害治療薬などのホルモン剤を使用している人では、妊娠していなくても検査結果が陽性となることがある。